

・ 序論： 「八つの幸い」、「地の塩・世の光」

- 1) マタイの聴衆（マタイ5：1）とルカにおける聴衆の違い（ルカ6：20）
- 2) 八つの幸い) 全体の構成と表現の特徴→現在のマタイ判はマタイによるまとめ（創作とは違う）。この表現から、八つの幸いは、いわば将来の約束、希望を語っている。
- 3) 八つの幸い大意

「霊においてまずしい人は幸い」が八つの幸いな人の根底に共通。

- ① ここで言う〈貧しい〉は相対的な意味ではなく、文字通りの無一物、他の人の助けがなければ死の危険さえある「極貧者」の意味。「霊において」とは・・・②「悲しむ人々は幸い」・・・悲しみは特定されていない。③「柔和な人」柔和とは・・・④「義に飢え渴く人」とは・・・⑤憐れみある人・・・⑥「心の清い人」の「ところ」はユダヤ人には人間の意志、思考、感情の中心を表す→神に対するふたごころなき従順（ルツ）。⑦平和を実現する（平和は、聖書では何よりも神の賜物の一つ）⑧「義のために迫害される人」・・・直後の11節の敷衍から考えて、「イエスのために迫害される人」つまり「信仰のゆえに・・・」迫害される人と解することが出来る。

- 4) 約束としての幸い・・・その保証は
- 5) イエスはここに語られた人々の現状そのものを「幸い」とは言わない。そうした状況に置かれている人々に対して語っている。
- 6) マタイは何故「精神化」を？

マタイの読者層とイエスの元来の聴衆の社会層の変化（荒井献の見解）

ルカの「平地の説教」の対象は弟子達

「序論」2. 「あなたがたは地の塩」「世の光」

- ① 「地の塩」である弟子たちとは
- ② 「世の光」とは
- ③ どのようにして人々のためになれるか
- ④ A. シュバイツァー博士の日本での講演から・・・美術館のガラスのように

「すべての誉れと栄光は、父であるあなたに！」